

平成16年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	68	学校名	県立竜ヶ崎第二高				課程	全日制		学校長名	石橋 清衛						
教頭名	椎名 利明				事務長名	山岡 佳一											
教職員数	教諭	4	3	養護助教諭	1	常勤講師	2	非常勤講師	2	実習教諭	1	事務職員	3	技術職員等	2	計	54
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計クラス数					
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女						
	普通科	5	10	5	2	11	4	5	10	7	1	2	3	2	6	9	
	商業科				2	7	0	0	5	2		2	1	2	2	4	
	商業に関する学科	5	6	0								5	6	0		2	
	家政科				0	4	0	0	3	4		0	7	4		2	
人間文化科	0	3	7								0	3	7		1		

2 目指す学校像

- 1 基礎学力を身につけると共に、規範意識を高め、他者を思い遣る豊かな心をもった人間の育成を図る。
- 2 特色ある教育課程の編成により、各科の特性を活かした進路の実現を図る。
- 3 学校・家庭・地域社会の相互連携協力により、地域社会から信頼され、活力と意欲に満ちた学校をめざす。

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	確かな学力を身につけさせるため授業時間の確保とわかる授業の実践に向け、さらに工夫改善研究が必要である。	IT活用等により、生徒が興味を抱き、工夫した授業の実践をめざす。
進路指導	進路希望の実現に向け、進学・就職両面での積極的な進路支援指導体制が必要である。	生徒の進路希望の実現をどう推進していくか。
生徒指導	基本的な生活習慣、マナー、服装、頭髪指導の徹底を、学校・保護者一体となって取り組む。	規範意識の高揚、交通安全指導体制の推進にむけてどう取り組むか。
特別活動	HRの活動内容や文化祭での発表を更に活発化する必要があり、部活動とあわせて尚一層の充実を図る。	生徒が積極的に取り組み挑戦できる環境および指導をどう推進していくか。

4 中期的目標

- (1) 進路希望の実現をめざし、大学進学希望者には、課外授業や模試など計画的な進路指導を心がけ、就職希望者にはインターンシップ、説明会等を通じて、正しい職業観、勤労観を育成し、生徒自身の適性を十分見極め、それぞれの進路希望を実現させる。
- (2) 学校と家庭・保護者と緊密な連絡を取りながら、頭髪・服装指導、遅刻・欠席防止指導の徹底により、基本的生活習慣の定着化、確立をめざす。
- (3) 部活動の活発化、更に生徒会活動、ボランティア活動の充実を図り、心身共に健康で心豊かな人間育成をめざす。

5 年次ごとの重点目標

年次	重点目標	具体的目標	達成状況
1年次	<p>楽しい授業、生徒が興味を持てる授業の実践</p> <p>進路実現のための支援体制組織の確立</p> <p>制服をきちんと着よう。</p> <p>交通マナーの徹底。</p> <p>部活動の活発化。HR活動、生徒会活動の活発化。</p>	<p>各教科毎に年間指導計画の再検見直しを図り、指導計画や教える内容の精選を検討し、教材、教具の整備に心がける。</p> <p>進学希望者、就職希望者、それぞれの進路希望実現のため支援体制組織づくりを確立する。積極的に求人開拓に取り組む。</p> <p>服装・頭髪指導を教師全員で取り組む。</p> <p>街頭での交通安全指導も保護者・教諭全員参加で取り組む。</p> <p>部活動への加入率を高めさせ、活発化をめざす。</p> <p>生徒会役員等のリーダー養成に力を入れ、全体を引っ張れる指導力を養わせる。</p>	
2年次	<p>生徒個々の学力の実態に応じたきめ細かな学習指導の実践。</p> <p>各科の特性を活かした進路先開拓</p> <p>校則を守ろう。</p> <p>交通安全指導</p> <p>体験活動の積極的推進</p>	<p>IT機器を利用し、生徒が興味を抱く授業の実践研究。</p> <p>公開授業の実践を通して教師相互の授業研究に努める。</p> <p>進路指導室の充実。(大学・企業の研究。諸ファイルの更新整備。就職支援体制諸施設・資料の充実。求人開拓・会社説明等)</p> <p>校則の再確認、見直しを図り、あわせて規範意識の高揚に努める</p> <p>生徒会、HRが中心となって、ボランティア活動や奉仕活動の積極的展開を図る。</p>	
3年次	<p>確かな学力が身に付いてきたか。</p> <p>各科の特性を活かした進路の実現が図れているか。</p> <p>公共マナーを向上しよう。</p> <p>交通安全指導</p> <p>ボランティア活動の定着化</p>	<p>習熟度別授業や英語のTT授業の実践により、生徒にとって効果的な学習ができたか。</p> <p>大学進学状況と就職希望者がきちんとした職業観、勤労意識に基づき職業に従事しているか。</p> <p>マナーアップをはかり、社会規範の遵守やボランティア活動等の積極的参加を促す。あわせて心豊かな心情を醸成できたか。</p> <p>ボランティア活動がHR(小さなグループ)から文化部等(大きなグループ)へ継承発展できるよう指導に当たる。</p>	